

# 資 計 統

## 〈不 定 期 刊 行 物〉

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
土地・人口			栃木県民所得推計報告書	35年	栃木県
わが国の人口集中地区	36年	総理府統計局	経 済 情 報	1962年	東京府
第14回簡速静止人口表	35.4.1~ 36.3.31	厚生省人口問題研究所	就業構造基本調査報告	36年	福島県
(生命表)			農産物商品化程度別農家統計報告	1960年	三重県
明治初年以降大正9年に至る男女年令別人口推計	37年2月	〃	〃	〃	東京都
人口増加と経済発展との関係に関する研究—最近のA.Sauvy教授の研究を中心として	37年2月	〃	教育じほう	37年	〃
住民登録人口移動報告季報7.8.9	36年	総理府統計局	石川県勢一覽	36年	石川県
住民登録人口移動報告年報	35年	〃	道民所得調査報告	35年	北海道
農林・水産			年次別	27~35年	〃
農 林 水 産 統 計	1962年	農林省統計調査部	栃木県統計年鑑	36年	栃木県
臨時漁業センサス	36年	〃	ポケット統計表	37年	東京都
漁家世帯員統計	36年	〃	福岡県鉱工業生産指数	36年	福岡県
漁業経済調査報告	35年	〃	北海道統計書	35年	北海道
茨城県養蚕年報	〃	農林省茨城統計調査事務所	本県の経済構造	37年	宮城県
主要冬作物生産統計	36年	〃	宮城県統計総覽	35年	〃
茨城水産統計速報	〃	〃	グラフしずおか	37年	静岡県
農業集落調査分布図	1960年	農林省農林経済局	鹿児島県民所得推計結果	35年	鹿児島県
漁業経済調査報告	35年度	〃	毎勤地方調査結果	36年	新潟県
家畜飼養の概要	〃	〃	保健所活動の概況	34年	茨城県
商 工			1960年センサス特集	35年	鳥取県
最近におけるわが国の商業	1962	通商産業大臣官房	山形県勢要覽	1962年	山形県
経 済			都民所得推計結果	35年	東京都
国民所得白書	35年	経済企画庁	東京都個人経済力調査報告	37年	〃
法人企業投資予測統計調査	37年	〃	家計調査結果速報	36年	香川県
教 育			大阪市統計書	〃	大阪府
社会教育調査報告書	35年	文 部 省	県民所得推計結果	35年	兵庫県
児童生徒体位個人調査報告書	35年度	〃	兵庫県統計書	34年	滋賀県
そ の 他			個人商工業経済調査年報	35年度	大阪府
繊維統計調査対象名簿	36年	通商産業大臣官房	学校保健統計調査報告	36年度	三重県
事業所統計調査報	35年	総理府統計局	新規就業調査結果	〃	〃
東京郵政統計年報	〃	東京郵政局	鉄道運輸統計	35年度	〃
増加図書年報	1961	総理府統計局	三重県統計書	34年度	〃
建築統計年報	35年	建設省計画局	農産物商品化程度別結果	1960年	大阪府
都道府県			そ の 他		
学校基本調査報告	36年度	北海道	賃金統計のしおり	37年	東京商工会議所
静岡県勢要覽	35年	静岡県			
工業統計調査結果報告書	〃	〃			
静岡県鉱工業生産指数	30~35年	〃			
統 計 図 鑑	36年	〃			

# 料 案 内

＜定 期 刊 行 物＞

資 料 名	月号	発 行 者	資 料 名	月号	発 行 者
日本統計月報	2, 3	総理府統計局	経済統計月報	2	日本銀行統計局
消費者物価指数	2	〃	コンクリートブロック	2	日本コンクリートブロック協会
家計調査報告	10	〃	農業総合研究	1	農林省農業総合研究所
労働力調査報告	2	〃	科学技術庁月報	4	科学技術庁
内外統計季報	3	〃	北海道統計	1.2.3	北海道統計協会
人口推計月報	1	〃	統計いわて	3, 4	岩手県統計協会
小売物価統計調査報告	1	〃	みやぎ統計	3, 4	宮城県統計協会
指定統計調整報告	1.2.3	行政管理庁統計基準局	統計秋田	3	秋田県文書統計課
届出統計月報	1	〃	統計春秋	2	福島県統計協会
統計情報	1	〃	統計ぐんま	3, 4	群馬県統計協会
通産統計月報	4	通産大臣官房調査統計部	統計月報	3	埼玉県統計協会
百貨店販売統計月報	2	〃	統計東京	3	東京都総務局統計部
出荷, 在庫統計速報	3, 4	〃	東京小売物価動向	2, 3	東京商工会議所
生産統計速報	3	〃	東京卸売物価動向	1	〃
商工統計研究	2	〃	東京都標準世帯家計調査報告	1	東京都総務局統計部
繊維統計速報	2, 3	〃	神奈川の統計	3, 4	神奈川県統計協会
紙, パルプ統計速報	2, 3	〃	交 流	3	山 梨 県
日用品, 皮革統計月報	1	〃	静岡県の統計	2, 3	静岡県統計課
ゴム統計月報	1	〃	統計にいがた	3	新潟県統計課
窯業建材統計月報	1	〃	会 議 所 月 報	2	大阪商工会議所
機械統計月報	1	〃	大阪の統計	2	大阪府統計課
繊維統計月報	1	〃	兵庫県の統計	2, 3	兵庫県統計協会
商業動態統計速報	1	〃	島根の統計	3	島根県統計協会
主要経済指標	4	〃	ともしび	3	岡山県統計協会
通産旬報	2, 3	通産大臣官房広報課	統計の泉	2	広島県統計協会
労働統計調査月報	3	労働大臣官房労働統計調査部	香川統計だより	3	香川県統計課
労働経済指標	2	〃	えひめの統計	3	愛媛県統計協会
賃金, 労働時間および雇用の動き	1	〃	統計福岡	3	福岡県統計課
教育統計	2	文部省調査局	統計佐賀	2	佐賀県統計課
農林水産統計月報	1	農林省農林経済局	統計月報	2	長崎県総務部統計課
世界の動き	4	外務省情報文化局	統計鹿児島	3	鹿児島県統計協会
都道府県展望	2, 3, 4	全国知事会	農業茨城	4, 5	茨城県農業技術研究会
広 報 研 究	4	全国広報研究会	茨城県主要経済指標	2	日本銀行水戸事務所
農 林 金 融	4	農林中央金庫調査部	生乳, 乳製品の生産消費に関する統計速報	2	農林省茨城統計調査事務所
漁 村 経 済	2	全国漁業協同組合連合会			

## 所得倍増計画のはなし

昭和37年度の本欄をかりて、35年県民所得を話題の前提としてお話しするわけではありますが、その前に、35年度は所得倍増計画という経済計画が作られた年でもありますし、倍増計画の再検討とか、修正とかの声も聞かれる今日の経済界の動向の最大の要因に設備投資があげられます。そういったことを頭において所得倍増計画ということについて触れてみましょう。

戦後、荒廃した国土を復興するために考えられた復興計画から、この倍増計画にいたるまで多くの経済計画が作られてきたわけではありますが、いずれの経済計画においてもそのときの経済情勢なり、社会的条件や要請にしたがって作られてきたわけでもあります。したがって、それぞれの計画の作成態度といったものはいずれも違うわけです。しかし、どの計画にしても、計画を作る場合に基本的な共通した考え方があるわけです。

すなわち、経済成長の可能性と、その構造の変化をみきわめることです。つまり、いままでに、経済が発展してきた内容を分析して、それが将来にどのように展開されていくかを予測することです。

そして、次の問題として、予測されたものが種々の望ましくない要素を含んでいたり、問題の生ずる可能性があるとき、その原因がなんであるかをみつけ出すことがあります。

こういった基本的な考え方をどのようにとらえるかということ、今までの経済計画もそれ自体おのおの特色を持った方法を使用してきたわけです。

この所得倍増計画というのは、ほぼ10年間のうちに経済規模を倍にするということが目標になっておりますが第1に、そのような経済成長が可能であるかどうかということ、第2に、倍増達成およびそれ以後の成長に特別の支障をきたさないようにするためには、政策的にどのような経済発展の方向をとればよいかということの二つの問題が最初に検討されなければなりません。

ここで、経済成長が可能であるかどうかということ、つまり、経済成長力を検討するのには、いままでの経済の成長というものが、どのような要因によつてもたらせ

られたかということを明らかにすることが必要であります。

戦後わが国の経済を概観するとき、一般に昭和30年ごろまでを経済の復興過程としておりますが、それ以後一応復興段階が終つてもなお高度の成長を維持出来たことの大きな原因として、消費革命と技術革新があげられます。これらはいずれも消費なり、投資なりの需要要因から成長の根拠を説明しようとするものですが、このような需要に対して供給面では供給能力としての資本、労働の生産要素の動向に大きな影響があるわけですが、わが国においては労働力が豊富であり、そのためにこの面からの成長に対する制約はあまり考えられなかつたわけです。このような需要と供給とは別に国際収支の間頭があるわけですが、この三つの側面をどのように計量化してとらえるかが計画作成の第1歩でもあるわけです。

一般に、消費革命といわれるとき、それは、消費支出の増加率と消費支出項目の変化傾向という指標でとらえられます。また、技術革新という場合にも、その投資需要の増加速度と投資される業種、設備の種類、生産性の上昇などの指標でとらえられます。また投資については需要効果と供給効果の二面がありますので、前者は投資乗数、後者は投資の産出力係数と関係させて考えなければなりません。このことを1例をあげて説明しますと、いまかりに一定の投資が行なわれたとしましょう、そうすると、その投資に応じて生産活動の膨張が行なわれ、一方で、生産能力が増大し、他方で投資額の何倍かの需要が生れてまいります。このような生産能力の増大は1単位当たり資本の生産能力の係数を媒介に算出されますが、その係数を産出力係数といいます。また、投資額以上の需要が起こるということは、投資にともなつて雇用の増加が起こり、賃金支払をとおして消費の増大をもたらすなどの需要の波及効果によるものでありますから、この度合いを示すものを投資乗数といいます。

この両者の数値が大きくなつたり、あるいは、小さくなつたりすることによつて、経済成長の度合いがみちびかれるわけです。つまり、投資乗数が小さく、産出力係

数が大きいような場合、需要を高めるために投資をより大きく行なうということは、ますます供給過剰の需要不足という状態をまねく結果になるわけです。このようにして、一応ある経済規模がきまると次の時期の投資は達成された経済規模に応じてきまるわけです。これを一般に加速度原理といっております。このようにして、再び投資が新しく行なわれ、前述の産出力係数、投資乗数をとおして経済の発展が行なわれるわけです。

こうしたみちすじにしたがって、わが国の経済をみてみますと、消費の伸びが投資の増加より遅れていること次に産出力係数が徐々に下つてきていることがいままでのデータによつてわかりました。このような傾向は、成長を高めるには投資をより大きく増大させて需要を高め、他方産出力係数の低下をカバーするためにも、投資の増大が必要なることを示しております。しかしながら投資の増大ということによつて第1に問題となるのは供給過剰の危険ということです。それを除くためには投資乗数を高めること、すなわち、消費の増加率を投資の増加に近づけること、産出力係数の低下をくいとめること、そのためには相対的に不足してきている社会的資本を満たして、技術革新の進行をスムーズに行なわせることが必要になります。このような考え方を背景として、現在のままの傾向がとられるとした場合と、消費の増加

率を高め、産出力係数の低下をおさえた場合などについてのおの可能な成長率を検討し、その結果6.5%から8%の年平均成長率で10年を推移することが可能であるということでありました。

このようにして、成長力の検討が終わると、その経済成長に対応した政策課題、または制約条件といったものが持ちよられ検討されるわけですが、与えられた経済規模に応じた最適な投資需要を算出し、その投資が次には各産業に配分されて生産所得を生み出し、さらに生産所得から勤労所得、法人所得などの分配所得が算出されるわけです。分配所得がきまると、個人所得がきまり個人税率をきめることによつて、個人可処分所得を出しさらに個人貯蓄額を出します。

このように所得倍増計画の試算表のモデルは、支出、生産、分配という経済の三面から経済のしくみをとらえる三面等価の原則を利用して、経済の各部分の因果関係を説明し、それをもとに経済計画の目標や、政策の方向を示そうとしたのです。

しかしそのことは、結局所得分析の範囲を出るものではなく、物価、金融連関、産業連関による広い分野の分析を残しているということができましよう。

(県統計課経済統計係長 横須賀 弘)

## 設 備 投 資 の 動 向 (昭和37年度上期)

昭和37年度上期に実施される予定の設備投資計画額は1兆2,325億円である。これは、36年度下期の設備投資実績見込額1兆2,178億円にくらべて147億円、1.2%の増加であり、設備投資が急増を示した。34年度下期以降の各期の設備投資の対前期増加率がいずれも10%を越えていたのにくらべると、37年度上期においては、設備投資はほぼ鎮静化し、横ばいとなることを示している。もつともまた、前年同期の設備投資実績額1兆0768億円、14.5%の増加であり、その水準はなお高いものがある。

また、36年度下期の設備投資実績見込額1兆2,78億円は、36年度上期の設備投資実績額1兆0768億円にくらべて1,410億円、13.1%の増加である。しかし、これは前回調査(36年8月調査)で予測された対前期増加率19.1%をかなり下回っている。

なお、36年度上期の実績額と下期の実績見込額を合算した36年度の実績見込額は2兆2,947億円となり、35年度

の実績額1兆7,876億円にくらべて5,071億円28.4%の増加である。

今回の調査結果の特徴は、前述のとおり、37年度上期の設備投資計画額がほぼ前期程度の水準のまま横這い傾向を示していることと、36年度下期の設備投資実績見込額が前回調査で予測された程には伸びなかつたことにあるが、これらはいずれも、36年度半以降にとられた金融引締め、設備投資計画の調整などの効果を反映しているものと思われる。

なお、37年度上期の設備投資計画額と同時に、37年度全年度間の設備投資計画額についても回答をよせた1,171社についてみると、37年度の設備投資計画額は2兆0869億円で、36年度の設備投資実績見込額1兆8,483億円にくらべて2,386億円12.9%の増加を示している。

(経済企画庁法人企業投資予測調査速報から)

# 減っている農業就業人口

昭和35年の県民所得推計結果による本県の産業別生産所得額は第1次産業645億円、第2次産業566億円、第3次産業337億円となっており、生産所得総額2,049億円に占める割合は、それぞれ31.5%、27.6%、40.9%であります。

これを昭和35年国勢調査による産業別就業人口と対比してみると、第1次産業では就業人口で56.2%を占めているのに所得は31.5%、1人当りにして112千円であり、これに対し、第2次産業では就業人口で16.8%、所得は27.6%を、1人当りにして327千円、第3次産業では就業人口で27.0%、所得は40.9%を、1人当りにして301千円であり、いかに第1次産業(農林水産業)における所得が他産業に比較して低いかうかがわれ、とくに1人当り所得で第1次産業のそれに対し、第2・3次産業では2.9倍、2.7倍となっていることからしても明らかであります。

このように生産性の低い農林水産業従事労働者を所得水準の高い他産業に移動させるべく、国及び地方公共団体においても各種の施策が計画され、あるいは実施されているようであります。

本県の総合開発振興計画によれば、次の第1次産業就

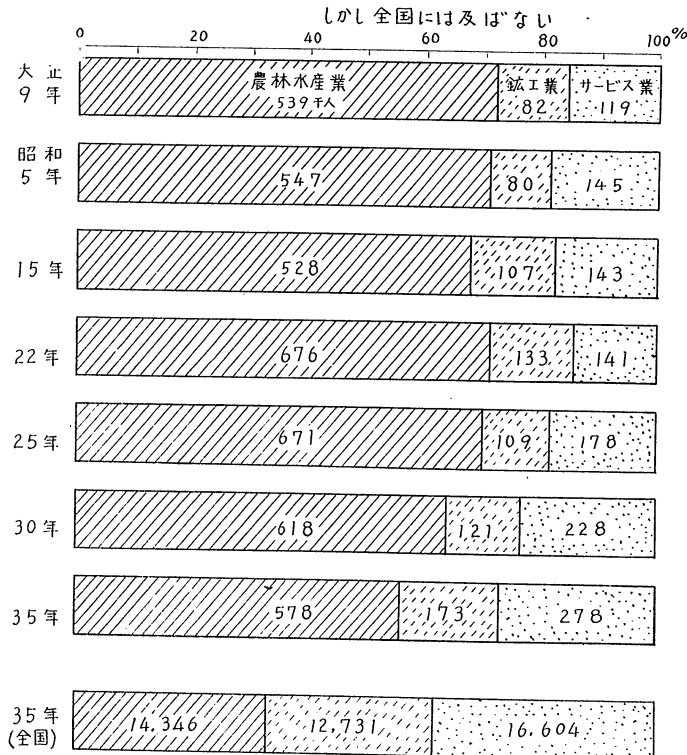
業人口は計画の目年標次(昭和45年度)まで年率3.3%ずつ減り、第2次産業の就業人口は年率7.9%ずつ、第3次産業のそれは5.4%ずつそれぞれ増えるであろうと予測しております。

ここで、国勢調査による産業別就業人口の変化をグラフに画いてみると、たしかにわずかではありますが、傾向として第1次産業就業人口は減っているようであります。ここで注目されるのは昭和22年に第1次産業の就業人口が他を引離して、676千人の70.9%を占めていることでもあります。

このことから終戦直後の困乱期が思い出されます。人々は職を失ない、第1に困つたものは食べ物のことであり、ために多くの人が街から引きあげて、なれない手つきで農仕事をしつて糧を得た時代であります。

その後世の中も落付をとりもどし、グラフにみるように第2次、第3次の就業人口が暫増し、昭和35年の産業別就業人口の割合は、第1次産業56.2%、第2次産業16.8%、第3次産業27.0%となりましたが、同年の全国の第1次産業就業人口14百万人32.8%にはまだまだ及ばないようであります。(生井)

減っている農業就業人口



# 鉄 道 輸 送

私達の生活に直結する食料品から、工業の原材料である鉄鉱などすべての物は、空輸、海運あるいは自動車、鉄道の陸運のいずれかの運搬手段によつて運ばれております。しかしどんな品物がどのような手段で運ばれているかという面の統計というと、かならずして完備されているとはいえませんが、最近国鉄事務管理統計部から、昭和35年度の主要貨物発着府県別トン数年報が発刊されましたので、本県関係部分を掲載いたします。

(単位トン)

品 目				発	着	発	超	着	超
石			炭材	2,021,167	422,020	1,599,147	—		—
石	及	び	石	42,466	6,725	35,741	—		—
砂	利	及	砂	157,052	20,490	136,562	—		—
鉄			鉄	81,862	18,479	63,383	—		—
硫		化	硫	150,377	100,057	50,320	—		—
銑			鉄	148	16,878	—	16,730		—
普	通	鋼	材	3,962	120,702	—	116,740		—
原			木	2,269	31,220	—	28,951		—
バ	ル	ブ	材	36,308	101,520	—	65,212		—
杭		用	木	1,466	46,613	—	45,147		—
薪			炭	7,792	6,181	1,611	—		—
木				2,037	1,580	457	—		—
米				112,006	15,299	96,707	—		—
麦			豆	117,940	55,328	62,612	—		—
大				175	10,631	—	10,456		—
甘			よ	75,422	1,179	74,243	—		—
馬	鈴	し	よ	70	6,359	—	6,289		—
野		し	菜	20,667	3,987	16,680	—		—
り			ご	37	10,799	—	10,742		—
み		ん	ん	—	3,407	—	3,407		—
み		か	ご						
そ	の	他	果	6,325	1,256	5,059	—		—
葉	た	の	物	24,556	5,758	18,798	—		—
餡	魚	び	こ	35,606	39,583	—	3,977		—
鮮	及	乾	料	15,693	11,452	4,241	—		—
塩			魚	14,383	913	13,470	—		—
塩			ア	1,333	19,338	—	18,005		—
硫	酸	ン	ニ	25,843	39,285	13,442	—		—
過	り	酸	石	5,989	48,308	—	42,319		—
石	灰	窒	化	25	7,255	—	7,230		—
そ	の	他	学	44,864	198,831	—	153,967		—
硫			酸	136,725	4,463	132,262	—		—
鉄			油	4,403	168,972	—	164,569		—
陶		磁	器	1,683	5,599	—	3,916		—
セ	メ		ト	383,394	165,830	217,564	—		—
機			械	55,247	19,186	36,061	—		—
小		麦	粉	40,874	6,410	34,464	—		—
た		ば	こ	2,786	3,586	—	800		—
酒			ル	3,704	4,132	—	428		—
ビ		—	そ	1,220	1,175	45	—		—
ミ				104	661	—	557		—
し	よ	う	油	170	593	—	423		—
綿			花	40	—	40	—		—
バ	ル		フ	33,324	40	33,284	—		—
紙				6,816	3,391	3,425	—		—
わ	ら	工	品	4,307	1,453	2,854	—		—

# 市 町 村 の 横 顔

## 日 立 市



(高 嶋 市 長)

海岸線に沿った平地地帯に平行して、市内の大甕、日立多賀、日立、小木津の各駅を通る常磐線と、これにそつて6号国道が縦貫しこの2条の幹線にそつて工場地帯が発展している。

その地帯から西部に向い山麓らしい丘陵地帯となつて最近ではこのあたりにどンドン近代的なアパートが建設されており、潮風を受け暖かい太陽をいっぱい浴びているところはまつたく理想的団地である。この背後には金銀などを包蔵する山々と、シーズンにはハイカー達でにぎわう高鈴山、神峰山に続く。

明治22年市町村制施行によつて高鈴村、日立村が発足した。明治38年久原久之助によつて赤沢銅山が日立鉱山となり、次いで日立製作所が誕生して大発展を遂げ、日立村は日立町に、高鈴村は助川町となつて、その後の発展過程で両町は殆んど同一都市の形態が自然につくられ昭和14年9月両町を合併し日立市の成立となつた。

しかし、この北関東唯一の工業都市日立市も、第二次世界大戦の戦火から逃れることは出来ず、廃虚と化した。にもかかわらず、戦後の文化国家建設とあいまつて当然工業都市日立市が脚光を浴び、市民の不屈の精神とたゆまざる努力によつて、総合産業都市への道を邁進して来たのであるが、頃もよし昭和29年に市町村合併法が施行され、昭和30年2月15日、多賀町、中里村、日高村坂本村、東小沢村、久慈町を合併、次いで昭和31年9月20日豊浦町も合併し、理想的な総合産業都市日立市が誕生し、現在では人口17万人を有する県下最大の都市として、4期連続当選の高嶋市長のもとで、更に世界の日立として躍進しようとしている。

## 2 産 業

市の代表的な産業は工鉱業というほかないであろう。明治42年に小平良平によつて創立された日立製作所、毎年多量の金銀を産出している日本鉱業所日立鉱山、それに日立セメント、またこれらの下請工場などを合せて、昭和35年工業調査の結果によれば、工場数499、従業者数

## 1 概況

総延長23 kmにも及ぶ日立海岸は日立市の地勢上最も目立ものである。この長い海岸線上には河原子などの海水浴場や、工業の発展に密接な関係をもつ日立港がある。

48,852人、年間製造品出荷額は、1,210億円で本県の製造品出荷額1,904億円の63%を占めている。

製造品の主なものは発電機からテレビ、冷蔵庫など電気機械器具製品であり、日立鉱山では昭和35年には金鉱146t、銀鉱2,339t、銅鉱5,424tなどが産出された。

農業は経営規模の零細化をたどつているが、日立市においては他に較べるものがないほどの消費人口があり、最近一部では野菜などを主に近郊農業としての合理的な農業経営が行なわれつつある。

人口の加速度的な増加によつて当然起つてくる問題として住宅の問題がある、市営住宅の入居の際には競争率7倍という難門を通らなければならない現状であり、日立市建設実施計画によれば、37年～39年までに、市、県公団住宅など合せて1,800戸あまりの建設を計画し、住宅難の解消に意を用いている。

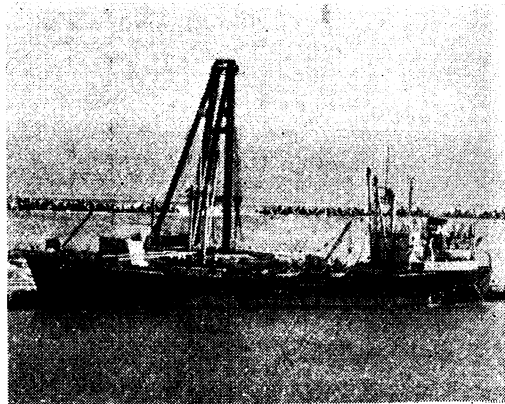
市では毎年独自の家計調査を実施しているが、この結果によれば、1世帯当り1カ月間の平均支出額は、昭和30年の20千円から年々増加し、35年には36千円と市民のふところ具合も大変よくなつており、市の予算も昭和37年度は17億円の大型予算で、そのうち市税が13億円を占めているのもいかに日立市らしい。

## 3 教育文化

小学校23校、中学校12校があり児童生徒も3万人に及んでいる。高等学校は日立第一、日立第二、日立工業、多賀の各公立高校と、私立の日立女子高校、茨城キリスト教学園が、更に茨城大学工業短期大学部、茨城キリスト教短期大学が置かれ、次代を背負う若者達が恵まれた環境の中で教育を受けている。

公民館活動も盛んで8つの公民館で17名の専任職員が社会教育活動の推進にあたり、市民の教養を高めるとともにリクレーション活動を通じ人の和を図つている。また日製、日鉱など事業所における文化活動も盛んに行なわれており市民に寄与しているところも大きいのではないが、日製多賀工場合唱団、日鉱のプラスバンドは全国コンクールにおいても優秀な成績をおさめ、その名を全国にとどろかしている。

最後に今後更に大工業都市として発展されるよう祈つてやまない。



(日 立 港)

## 作家のとらえた人間

茨城大学教授 塚本勝義

「人生は一箱のマツチに似ている。重大に扱うのは馬鹿々々しい。重大に扱わなければ危険である。」と芥川竜之介はつぶやいた。

考えてみれば人間の営みなんて、からきしちつぽけな事ばかりだ。大統領という人間の仕事だつてサインするくらいが関の山かも知れぬ。大骨折つて大統領になり、仕事の馬鹿々々しさに、早くもやめたくなつてる大統領だつてあろう。もつとも馬鹿々々しさに気づかぬ馬鹿々々しい大統領もあろうが――

しかし、馬鹿々々しいからといって、いい加減なサインをするなら、地球が死の灰に包まれる。

× × ×

「民衆の愚を発見するのは必ずしも誇るに足ることではない。」これも芥川の独語。民衆の愚を発見して、いい気持になつてる人間がいかに多いことか。「が、我々自身もまた民衆であることを発見するのは、ともかくも誇るに足ることである。」と芥川はつづける。

「おれも民衆だ」「わたしも民衆だ」と誰もかれも発見したら、役所のサービスなんて、およそ笑止の沙汰になろう。自己の中に民衆を発見できないばかりに、やさしい言葉に針がかくされ、ていねいなおじぎが滑稽なほど技巧的に見える。

× × ×

「結婚は性欲を調節することには有効である。が、恋愛を調節することには有効でない。」と芥川は述懐する。

芥川は大正7年2月、27才で結婚した。この言葉のある「侏儒の言葉」は、昭和2年に「文芸春秋」に発表した。だから、この結婚観は、約十年にわたる結婚生活体験の結論だつたといえよう。

結婚は、性的には人間を安定させるが、愛情の世界では決して安定させないというのだ。夫も妻も、こと愛に関する限り、相変わらずキヨロキヨロしているというのだ。

芥川のこの結論が真実だとするなら、人間はいくつになつても危険きわまりない生き物だということになる。もつとも、危険きわまりない生き物だから、面白くもあり、魅力もある。みんな安全だつたら、どこからどこまでアグビだらけになつてしまう。

× × ×

「我々を恋愛から救うものは理性よりも、むしろ多忙である。」これも芥川の独語。たしかに多忙では「愛の手紙」もまとまらぬ。相手の顔を見上げるいとまもなく

カレーライスを噛まずに呑みくだし、散歩も駆足だ。とても「あなたの純情」に、ぼうつとして時間なんかない。だから芥川は言葉をついで、「恋愛もまた完全に行われる為には何よりも時間を持たなければならぬ。」と忠告し、例の物知り振りを發揮して、ウエルテルもロミオもトリスタンも、みんな無類の閑人だつたと教える。

現代人はみんな多忙だ。バスの中でも読書しなければならぬ。こんなに多忙な現代人に果して本当の恋愛があるだろうか。くびをかしげたくなる。恋愛だと思つて喜んでることが、実は単なる戯れに過ぎないではないか、とも疑いたくなる。半年1年でポツンポツンと切れてしまうのも本物でない証拠か。

本物の恋なら、ラブレターの文字が下手なくらいで縁の切れるはずもあるまい。

× × ×

「理性のわたしに教えたものは畢竟理性の無力だつた。」と芥川は歎く。

大した問題でなければ理性がよくはたらく。3円ぐらいの釣銭なら誰だつてゆつくり数えられる。事、重大になると、脚がこまかく動き、手が見事にふるえ、おまけに顔色まで急変する。瞬間にして理性人は原始的な感情人に逆戻りしてしまう。結局、理性とは小事を処理するだけに役立つ道具にしか過ぎないのか。

× × ×

「人生は哲学と逆である。怠惰のないところに幸福はなく、無用の物だけが満足をもたらす。」とチエーホフはいう。

仕事の合間をねらつて引出しの中にあまり上等でもない週間誌をそつとひろげて読むうれしさよ。

とつても多忙だというのに、土器の破片なんか拾つてきて、すつかり感激してしまう大なる満足よ。落ちついて見当つければ鶏の水のみにもならぬ代物であるのに。

しかしチエーホフは人生の全体を直視してモノを言っている。人生全体を確実につかんだ上で発言している。

彼は「仕事よりも宴会で幸福を感じる人間」を知っている。彼は「自己の職業関係の書籍に親しむよりも月界人の恋物語に満足してしまう人間」を知っている。

ムダを省け――という。まことに結構。しかし程度がある。ムダが全然なくなつてしまつたら、おそらく人類は、ちつ息してしまうに相違あるまい。(統)